

<b>事業名</b>	サービスラーニング (ESD=持続可能な開発のための教育) 事業	
<b>事業分類</b>	国際理解・交流事業	
<b>支援対象</b>	日本国内 (小・中・高校・大学) カンボジア (BBU 日本語講座、New Child Care Center (NCCC)、チェイ小 HG 日本語教室、体育科認定校)	

## 活動概要

学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ボランティア教育などに協力する。

子ども達が、世界の現状 (貧困・環境・平和など) に目を向け、グローバルな視点から、国際理解 (異文化理解) を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。学習方法は、講演 (カンボジア来訪者、スタッフ他) IT 機器による交流 (メールやスカイプなどを利用)、ビデオ、文通、現地を訪問するなど、様々な手段を利用。そして交流したなかで、異文化理解や持続可能な開発などについて考え、自らの生活を見直し、自分達の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できる人材を育成する。

### 1) 出前授業

年間 21 回の出前授業を実施 (代表、HG 本部スタッフ、東南アジア事務所スタッフ、日本語教師、留学生、カンボジア車いすランナー)。実際に活動している人から話を聞くことにより、現地を理解し、自分達にもできる活動について考える。

第 3 藤田小学校、朝日塾小学校、野谷小学校、政田小学校、連島東小学校、清輝小学校、岡山清秀中学校、岡山学芸館高校、他



出前授業

### 2) 交流

手紙やプレゼントの交換、スカイプでの交流を通して異文化理解を深めた。

日本の教室と NCCC をスカイプで結んで、お互いに歌や体育実技等を披露し合った。両国の子ども達にとって、直接、顔が見え声が聞こえる貴重な機会になった。

### 3) 派遣・研修受入

カンボジアへの受入：日本の中 (1) 高 (1) 大学 (6) から、スタディツアーを受入れ研修・交流をした。

カンボジアから受入：教育省担当官が、岡山大学と岡山・倉敷の小・中学・高校で研修を行った。

### 4) 設備・物資支援 (日本の学校からの寄付金はまとめて施設や教材の支援に活用)

アソールウォーキング大会、体育教育研究指定校、NCCC などに必要な物資を、日本の協力学校や団体が集め、ツアーで持ち込み、必要な所に配付。募金は、体育用具支援として、鉄棒 (7 校)、マット (10 校に 10 枚)、ボール (39 個)、ストップウォッチ 15 個をカンボジアの小学校に贈呈・設置した。

支援物資は、T シャツ、教材、文房具、歯ブラシ、カレンダー、石鹸、衣類、タオル、遊具、生活用品などを持ち込み、小学校や施設他に配付した。

### 5) 現地受入れ (26 回)

高校生・大学生、NGO などのスタディツアーや個人を、カンボジアの活動現場 (NCCC、運動会、BBU) に受入れ、国際協力活動や交流を実施。現地での実体験は日本の学生にとって大きな刺激となり、グローバル人材育成に寄与した。



スカイプで音楽演奏



生活用品を支援してもらいました

## 成果

年間を通じて途上国に関わることで、貧困、環境、食料、人権、平和などがつながりをもって連関している事を知る。また、自分達のおかれた地域に目を向け持続可能な社会を協力して作る事の大切さを理解。自分たちが支援した募金・物資などが、現地に渡され喜ばれ活用されたことを知ることで、活動の意味を見つけた。

相手の立場に立って考えられる冷静さと、継続する大切さなどを確認。友人や家族と共に活動して自分の身のまわりから変えていくことで社会を変えていく喜びを感じた。2017 年度も教育現場の先生方が現地で活動されたことで、子ども達にグローバルな視点から異文化理解・国際協力が広がることを期待したい。



大学生との交流

## 今後の計画

現地スタッフやカンボジア人などができる範囲で学校訪問をして、直接顔の見える交流の機会を増やす。学校が取り組む「SDGs/持続可能な開発のための目標」に協力し、実践を通して子ども達が地球規模で未来を考え、社会性が育つ手助けや、日本の青少年をインターンやボランティアとして受入、体験を通しての成長を育みたい。

## 助成・協力団体

岡山 ESD 推進協議会、岡山市立政田・第三藤田小学校、倉敷市立連島東小学校、個人支援者、(株)イナダ、淀川国際ハーフマラソン、就実中・高校、順天中・高校飛鳥会